



今月のテーマ 『水と衛生月間』

第1468回例会

2017年3月16日 Vol.31/No.32

■本日の例会 / 第1469回 平成29年3月23日(木)

- 会長・幹事報告
- 各委員会報告…各委員長
- 会員卓話……川崎新一 会員、渡邊 勝 会員

【出席率状況報告】

- ・会員数 ……………55名
- ・出席者 ……………32名
- ・欠席者 ……………23名
- ・出席率 ……………58.18%
- ・3/2の修正出席率…78.18%

■会長挨拶



会長 香川美穂子

こんにちは。みなさんご承知の通り、国際ロータリークラブでは3年ごとに規定審議会が開催され定款の見直しが行われます。昨年委員会が審議会に出席され、お帰りになってから変更事項に関して色々お話をしました。変更事項の主なものは1、例会がこれまでは毎週1回でしたが月に2回以上であれば良い。2、入会金と言う言葉が定款からなくなったと言う2点だと思います。但しこの様に変更はしたが裁量は各クラブに任せられ、今まで通りでも構わない。との事です。この通達を1月に日本語に訳され「手続き要覧」として事務所に届いておりました。そこで次にクラブとして取り掛かる事はこの定款に従っての宮崎中央クラブ細則の作成です。私個人としては「これまで通りが良い」つまり「例会は毎週あってこそ例会である」と思いますし、「入会金がなくなると財政的に厳しい」と思います。しかも今期国際ロータリーに納める会員一人当たりの人頭金が毎年4ドルづつ上がるとのことです。今年はこれまでより4ドル上がるだけですが来年はさらに4ドルの上乗せ。3年目はさらに4ドルの上乗せ、つまり今よりも12ドル(約1500円)の値上げです。その次の年は規定審議会の年ですからどうなるかはわからない様です。今でも「会費が高い」と言う声が先日の「満足度アンケート」に出ています。「今の会費ではこの4ドルづつの値上げをカバーできない」と会費値上げをすでにしたクラブもあると聞いております。この様な状況下で入会金を取らない様にするともますます財政困難となると思いますから、私は細則の変更は必要無しと思いつけずおりました。が、いよいよ私の年度も残すところ後3ヶ月となり次年度との引き継ぎの時期になりましたので、次年度の

理事会の方々にはこの件良くご検討頂き、7月からのクラブ運営にご対応頂きたいと思っております。尚「手続き要覧」は1冊700円程度と聞いております。3年に1度のことでもありますのでこの際1冊づつ皆さんにお持ち頂き、よく読んでいただくのも良いのではと思っております。今日例会の後で理事会がありますから検討したいと思っております。

私はこれまでの9ヶ月間事あるごとに「まずは仕事優先。無理はしないで。そして過大な負担のかからないクラブライフ」を申し上げて来たと思っております。繰り返しになりますが、平日の真昼間に時間をかけて毎週例会に出席するのはお仕事を抱えてさぞ大変な事だろうと思っております。「時は金なり」と申します。私はお金よりも時間の方が大切と思う事すらあります。これから先日致しました「満足度」アンケートを検討し、皆さんが楽に例会に出席でき、良い情報を得ると共に人間形成の良い交流の場としてのクラブライフを過ごす事の出来る環境づくりに努力したいと思っております。何故ならば、これこそが新会員を獲得する最重要課題だと私は思うからです。誰しもお金はかかる、時間は取られる、更に忙しくなる様なものに自分の生活がかかっている仕事の時間を削ってまで喜んで参加するとは思えません。皆さんにお考え頂きたいのは、4つのテストに詠われている「みんなに公平か、みんなのためになるかどうか」の言葉です。「自分は今のままで良い」と問題にもし無いのでは無く、本当に会員全員及び会員となつていただく方々にとって「どういう状態が良いのか」を考え、クラブ運営にご協力頂きたいと思っております。よろしくお願ひします。

■幹事報告

幹事 江藤敏治

みなさん。こんにちは。最近インフルエンザも若干減ってきましたがまだまだ要注意です。花粉

症の方も本当に多くなってきました。睡眠不足、ストレスも増悪因子となります。気を付けてください。報告事項は5月24日第17回ロータリー勉強会がマリックスにて開催されます。是非ご参加ください。また、米山奨学金からロータリー留学生カウンセラー委嘱状が松田くるみ会員と当クラブにまいりました。皆さんどうぞよろしくお願いたします。

■職業奉仕委員会 委員長 江口健一



「くすの木賞」授賞式について
宮崎中央ロータリークラブ（香川美穂子会長）では、今年度の社会奉仕賞「くすの木賞」を、マリンプルーボランティア（宮崎ボランティア協会）代表者 山口 雅博氏に贈ります。

- ・日程 4月6日（木）12時45分より
- ・場所 シーガイアリゾート・サミット4階クリスタル
- ・式次第 受賞者紹介 賞状授与 受賞者記念講演

■米山奨学金カウンセラー委嘱状



松田くるみ 会員

■米山奨学金授与式 バトムンク パータルスレン 君（お礼のあいさつ）皆様、こんにちば。よろしくおねがいします。私は、日本に来る前にはモンゴルで外科医として働いていました。毎日、手術や治療を行っていましたが、最新の医学を学びたいと思い宮崎大学の医学部の博士課程に進学することを決めました。4年間の日本での大学生活での実験や研究方法もたくさん学べました。また、実際に病院の外科で新しい手術の技術を学びました。とてもうれしかったです。初めての日本での生活はとても大変でしたが、ロータリー米山奨学金をもらい、がんばることができました。無事に卒業できたのもロータリークラブの皆様のおかげだと思ってとても感謝しています。特に、私の担当のついた先生には大変感謝しています。ありがとうございました。

モンゴルに帰ったら日本で学んだことを一緒に働いている先生たちに教えていきたいと思いません。これからも、共同実験などで日本とモンゴルの架け橋になりたいと思えます。ありがとうございます。



ゲスト卓話 丸山加菜 様
ベネズエラでの看護師隊員としての青年海外協力隊活動
～世界マルルン滞在記・南米ベネズエラ編～



私は福岡赤十字病院で6年間勤務した後、ワーキングホリデーを利用しカナダに滞在していた。その際、南米のペルーに一人旅をしたことをきっかけに、開発途上国に暮らす人々や日本と異なる文化に強い関心を抱き、現地で生活しながらボランティア活動を行う青年海外協力隊の参加することを決意した。そして、ペルーへの一人旅を経験し、これまでできないと思っていたことは「できないのではなく、やらなかっただけだ！」と、様々なことに挑戦する気持ちが芽生え、富士山8合目の山小屋での住み込みアルバイトや四国八十八ヶ所巡りのお遍路などに挑戦した後、ベネズエラへ出発した。

ベネズエラでは、内陸の農村地域にあるボパレ村で新規派遣の隊員として活動を行うこととなったが、着任早々ホームステイ先の部屋は準備されず、配属先の上司からは「何をしに来たの？あなたのミッションは？」と聞かれ、自分は必要とされていないのではないかと不安になることもあった。しかし、村のことや村人のことを知って、村のことを大好きになろうと決意を新たに、活動を進めていった。

任地のボパレ診療所では、99の集落を管轄しており、管轄地域の最大幅は100kmと広範囲に渡っていた。遠方集落までの道のりは、インフラが整備されておらずバイクや4輪駆動車でないと通行できない状態の場所があり、公共交通機関も少なく、診療所まで来ることが難しい村人も多かった。そのため、週に1回の農村診療（医師・看護師による巡回診療、保健指導、予防注射など）

発行/ 宮崎中央ロータリークラブ

- 事務局 〒880-0804 宮崎市宮田町10-25 宮田町ビル TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-0288
 - 例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30~13:30)
- 会長/香川美穂子 副会長/三輪修珍・田中 寿 幹事/江藤敬治